

Effect of evacuation on liver function after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident:

The Fukushima Health Management Survey.

福島第一原発事故後の避難生活が肝機能に及ぼした影響

高橋敦史

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

福島県立医科大学医学部消化器内科学講座

著者

高橋敦史^{1,2}、大平哲也^{1,3}、細矢光亮^{1,4}、安村誠司^{1,5}、永井雅人^{1,3}、大平弘正²、橋本重厚^{1,6}、佐藤博亮^{1,6}、坂井晃^{1,7}、大津留晶^{1,8}、川崎幸彦^{1,4}、鈴木均^{1,9}、小橋元¹⁰、小笹晃太郎¹¹、山下俊一^{1,12}、神谷研二^{1,13}、阿部正文¹、福島県民健康調査グループ

1 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、2 福島県立医科大学医学部消化器内科学講座、3 福島県立医科大学医学部疫学講座、4 福島県立医科大学医学部小児科学講座、5 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、6 福島県立医科大学医学部腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座、7 福島県立医科大学放射線生命科学講座、8 福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座、9 福島県立医科大学医学部循環器・血液内科学講座、10 獨協医科大学公衆衛生学講座、11 放射線影響研究所疫学部、12 長崎大学原爆後障害医療研究所 13 広島大学原爆放射線医科学研究所

目的

東日本大震災と福島第一原発事故は、地域住民の日常生活を避難生活へと大きく変化させました。我々は避難生活の肝機能への影響を調べるため、災害前後の肝機能の変化を分析しました。

方法

避難区域 13 市町村の地域住民の方のうち、2008 年から 2010 年の間に特定健診・後期高齢者健診を受診された男女 2 万 7486 人を対象としました。対象者のうち、震災後の 2011 年 6 月から 2013 年 3 月までの間に再度健診を受診された方を解析対象者として、震災前後の肝障害の割合を飲酒の状況で分類して比較しました。

結果

震災後、総数 2 万 6006 人の受診者（男性 1 万 1715 人および女性 1 万 4291 人）が、平均 1.6 年の追跡調査を受けました。肝障害の割合は全体で震災前 16.4%から震災後 19.2%へ有意に増加しており、非飲酒・飲酒量別でも同様に増加していました。さらに、肝障害の増加の割合が、非避難者に比べ避難者で有意に高いことも確認されました。震災後の新たな肝障害リスクを検討したところ、非避難者に比べて避難者が新たに肝障害を示すリスクは、非飲酒者で 1.38 倍、軽度飲酒者で 1.43 倍、中等度以上の飲酒者で 1.24 倍でした。

結論

避難生活が、飲酒状況に関係なく肝障害に関連することが明らかになりました。

掲載情報

「Journal of Epidemiology」(2017)

Takahashi A, Ohira T, Hosoya M, Yasumura S, Nagai M, Ohira H, Hashimoto S, Satoh H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Suzuki H, Kobashi G, Ozasa K, Yamashita S, Kamiya K, Abe M

Journal of Epidemiology. 2017 Apr; 27(4):180-185.